NIE実践報告

1．タイトル：**☆よりよい情報の見分け方・受け取り方**

2．学校名

熊本県熊本市立小島小学校

3．実践者名（代表者名）

森山　政司

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　37人

6．単元（本時の学習課題）名

わたしたちのくらしと情報「よりよい情報の見分け方・受け取り方」

7．目標(狙い)

情報の受け手や送り手の立場や考え方を学び、よりよい情報活用の能力を育てる。

8．評価の視点

新聞記事の中から自分にとって必要な情報を見つけ、よりよい情報の見分け方・受け取り方について考えることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

わたしたちのくらしと情報(社会)11時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞記者の出前授業を行い、新聞をつくる時の様子や新聞に携わる人の気持ちを知る。(1時間)
②新聞やテレビのニュース番組ができるまでの様子を学習する。(3時間)
③熊日新聞社やテレビ局の見学。(4時間)
④見学したことをまとめる。(1時間)
⑤よりよい情報の見分け方・受け取り方について考える。(1時間)
⑥情報の活用についてまとめる。(1時間)
留意点
・わたしたちのくらしと情報のかかわりについて、出前授業や見学など具体的な体験活動を通して実感させ、意欲的に調べたり考えさせたりする。
・情報を受け取る立場だけでなく、情報を伝える側の立場についても考えることができるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

出前授業では、新聞記者になりたいという感想を書く子どももいた。
新聞社を見学して、限られた時間の中で、たくさんの記事をまとめ、たくさんの家に新聞を届ける新聞社の人たちを尊敬するという感想もあった。

12．成果と課題

昨年度の実践の反省として、新聞を資料として扱うことはできたが、新聞を通して考えさせることや、自分の考えを持たせることまでには至らなかった。だから、5年生では、もっと伝える側のことも考えた伝え方の工夫についても考えさせ、これからの情報活用の課題についても話し合うことができたらと考えていた。
実際、直接新聞に携わる人とふれあうことで、今まで以上に新聞を身近に感じ、親しみをおぼえることができたと思う。4年生と5年生の半年間ずつ、新聞を活用した社会科の学習に取り組んだが、小学生の子どもたちにとって新聞は、読めない字があったり、意味が分からない言葉があって、なかなかとりつきにくいもので